

公表

事業所における自己評価結果 放課後等デイサービス

事業所名		公表日				
くれよんきっず		令和8年 3月 2日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用定員に対して、支援室及び活動スペースは十分に確保されている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準以上の職員配置を行っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		こども達にわかりやすい構造化、また、安全面にも配慮した環境になっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日の清掃、消毒を徹底し、定期的な換気もを行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもの特性やその日の状態に応じて、個別の空間を活用し、支援を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		定期的な振り返りを行い、支援内容の見直しや改善につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者からのご意見を大切に、意向も含め必要な場合は迅速に対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		施設会議を月1回行い、意見を全体で把握し、改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	現在は保護者と事業者内の評価のみとなっている。	外部評価を検討していく
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		職員の資質向上を目的として、内部・外部研修への参加を行っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		5領域を意識し内容を作成し、HP上にて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者面談や職員会議を行い、ニーズを把握し、支援計画を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		モニタリング等で職員が意見を出し合い検討している	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画内容を職員間で共有し、共通理解の下で作成している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		個別支援計画等に基づくフォーマルなアセスメントと、日々の観察や記録によるインフォーマルなアセスメントを組み合わせ、総合的に支援に活かしている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ご家庭での様子を面談や連絡帳などで伺い、各ご家庭での支援について内容を検討している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		保護者様のご意見も参考に、職員間で情報共有を行い、チームでプログラムの立案を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		5領域の徹底と、常に新しい情報を取り入れ実践している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		児童の発達段階に応じて個別支援と集団支援を組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		チーム内で役割分担を行い、連携した支援を実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		支援経過記録や申し送りノート等にて共有し、チームで振り返りを行い、支援の質の向上に努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		一日にあったことを記録に残し、改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを行い、常に児童にあった支援を考え、見直し・支援へつなげている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		楽しみながら行うプログラムを通して「4つの基本活動」を組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		児童自ら見て、考えて発信できるよう支援の工夫を行い、自分で決める力をプログラムや支援に取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達支援管理責任者や精通した者が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		情報共有を行い、連携を図り支援を行う体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		下校時間を確認し、支援前に対応を再確認している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者からの成育歴等の聞き取りや、関係機関との情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		5	移行する児童がまだいないが、今後考慮していく必要がある。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		訪問や電話等にて連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		地域イベントへの参加や、公園等への外出で同年代の児童を交えて遊ぶ機会がある	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		日程調整が出来た時には参加出来ている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		連絡帳や送迎時など、日々保護者との情報共有を心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		保護者会などでペアレント・トレーニングを実施している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に重要事項説明書と併せて行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		面談の際、ご家族の考えやご本人の想いを伺い作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		個別支援計画書などを通して同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		半年に1回の面談や、随時必要に応じて面談や相談などを行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		イベントで親子参加型を企画している。好評の為、続けていきたいと思っている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談や申し入れがあった場合は、電話や面談等にて迅速かつ適切に行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		くれよん通信やインスタグラムなどで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		同意書を取り交わし、個人情報保護規定に沿って対応している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		個々の特性を考慮し、可視化やサイン等配慮しながら行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5	地域クリーニングなどは行っているが、現状をふまえ、地域との関りを広げられるよう前向きに検討していく。	地域住民へのイベントを検討していく
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルを策定し、定期的な研修等を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		避難訓練、ルートの確認、消火器の使い方など定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		健康情報票を記入していただき確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		食物アレルギーに関する情報を職員間で共有し、対応についても共通理解を図っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全対策委員会において、様々なシチュエーションを考え、支援を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		「安全第一」であることをお伝えし、取り組んでいる。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		安全委員会を開き、共有と再発防止に向けて話し合っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待防止および適切な対応について研修を行い、意識向上に努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束は行っていないが、行う場合には組織的に決定し、十分な説明をおこなっている。		